公益財団法人 国際通貨研究所
Institute for International Monetary Affairs
メールマガジン

2014 年 1 月 15 日

国際金融システムのバックストップ

IIMA 経済調査部長 兼 開発経済調査部長
佐久間 浩司

少し前のことになるが、2013 年 IMF 総会に関連したセミナーに参加するためワシントンに行った。そこに、金融の経営者向けに IFC が作った「銀行役員のためのガイダンス」という冊子（添付写真）が置いてあり、パラパラめくると、”Almost uniquely among industries, banks deal extensively with each other.” という一文が目に付いた。これは、個々の銀行や、システムとしての銀行群の動態をつかんだ鋭い観察だと思う。

銀行は、対顧客との取引以上の量を銀行間で取引することにより、市場の流動性を潤沢にして、どんな相場の地合いでも、顧客から要請があれば金融商品の価格を提示できるようにしている。こうしたインターバンクの取引があるからこそ、通貨危機の時でも、暴落する通貨の買い手を見つけることができる。対顧客の実需取引があり、次にインターバンク市場でそのカバー取引があり、さらにそれを超える投機取引があると整然とした区分けがあるのではなく、すべての取引は、動機がなんであれ、結果として潤沢な市場の流動性を作り出し、実需の要請に応えた銀行のプライシングを可能にしている。

Extensively に膨れ上がった取引関係は金融商品ごとに広がる。また銀行の取引は一般の企業と比べ、商品と代金の同時交換というより債権債務関係が一定期間続くことが多いのも特徴だ。このため、銀行システムの中のどこか一行でも支払不能に陥ると、たちまち市場に、混乱に巻き込まれるのではないかという疑心暗鬼が生じる。

この相互不信の状態は、どこまでが倒産連鎖の可能性のある範囲がわからないという不透明さが深く関係しているが、この範囲が一つの国に収まっていれば、政府や中央銀行が号令をかけ一律的な対応がとれる。またそういう司令塔があるという安心感があれば、債権者は落ち着くことができ、マクロ経済的な損害が最小になるような行動がとられやすい。しかし、金融ビジネスはクロスボーダーに広がっており、そこには、全体に強い力を及ぼせるような政府や中央銀行はない。もちろん、そうした時のための国際的

な協調行動がないわけではない。政府間のスワップ協定や、民間の債権銀行団の集まりであるロンドンクラブなどがその例だ。しかし、こうした“協定”や問題が起きた時の“会合”レベルの緩やかな体制では対応しきれないほど金融ビジネスの規模は大きくなっている。

“協定”を超えて、危機対応のためのしっかりした制度と共通の財源をもって対処しようという超国家レベルのメカニズム構築に踏み込んだのがユーロ圏の銀行同盟だ。ユーロ圏外の者の間では、通貨と中銀がひとつになったのだから、バックストップ機能も共通のものを作らなければならないのは当たり前で、ユーロ圏はようやく気付いたと冷めた見方もある。しかし、これほど金融のグローバル化が進む中で、超国家的なバックストップ機能が必要なのは、なにも共通通貨を持ったユーロに限ったことではないだろう。英米日は、ユーロ圏の銀行同盟の今後の推移、特にユーロ圏の政府がそれぞれの国民にどう説明し、国民がどういうプロセスを経て納得して仕組みを作っていくかというプロセスを注意深く見守る必要がある。必ず自分たちの将来の参考になるはずだ。

（IIMA メールマガジンへの寄稿）

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2014Institute for International Monetary Affairs（公益財団法人 国際通貨研究所）
All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.
Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan
Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422
〒103-0021　東京都中央区日本橋本石町 1-3-2
電話：03-3245-6934（代）ファックス：03-3231-5422
e-mail: admin@iima.or.jp
URL: http://www.iima.or.jp